（９）　とうがらし類　　※とうがらし類のうち「ししとう」については、（８）ししとうも参照

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期等	RACコード	薬剤
1 苗立枯病 *Rhizoctonia solani*	1.床土は排水のよい無病のものを使う。 2.苗床の温度管理に注意し、急激な温度変化を避ける。 3.換気を行い、床土を乾かす。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.土壌消毒方法はⅢ－14．土壌病害虫の防除の項参照。	土壌くん蒸	－	クロピクテープ
		種子消毒（播種前）	M4	オーソサイド水和剤８０
2 青枯病 *Ralstonia solanacearum*	1.無病地を選ぶ。 2.ナス科作物の連作を避ける。 3.圃場の排水を良好にする。 4.発病株はできるだけ早く抜き取り、圃場外で処分する。 5.栽培管理などの作業中に根を傷つけないように注意する。 〈薬剤使用の特記事項〉 1.土壌消毒方法はⅢ－14．土壌病害虫の防除の項参照。	土壌くん蒸	－ － －・－	クロールピクリン クロピクテープ （混）ソイリーン
3 疫病 *Phytophthora capsici*	1.高畝にして排水を図る。 2.ポリマルチ、敷わらなどを行い、雨のはね返りを防ぐ。 3.品種間差異がある。 4.前年、発病畑で使用した資材は消毒する。 5.連作を避ける。 6.カボチャ､キュウリ､トマト、ナス等の疫病菌と同種なので、これらの作物との輪作は避ける。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.土壌消毒方法はⅢ－14．土壌病害虫の防除の項参照。 2.ガスタード微粒剤、バスアミド微粒剤は青枯病、萎凋病にも登録がある。	土壌くん蒸	－ － － － －	クロールピクリン クロルピクリン錠剤 クロピクテープ ガスタード微粒剤 バスアミド微粒剤
		発病前から	21	ランマンフロアブル
4 萎凋病 *Fusarium oxysporum*	1.無病地を選ぶ。 2.発病株は除去する。 3.作物残さは圃場外へ取り出し、深く穴を掘って埋める。 4.未熟堆肥は病原菌の増殖を助長するので、完熟堆肥を利用する。 〈薬剤使用の特記事項〉 1.土壌消毒方法はⅢ－14．土壌病害虫の防除の項参照。	土壌くん蒸	－ －	クロールピクリン クロルピクリン錠剤
5 灰色かび病 *Botrytis cinerea*	1.過湿にならないように換気を良好にする。 2.病葉、被害果を除去して埋める。 3.ポリマルチを行う。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.発病前から予防的に散布する。	発病前から	2 7	ロブラール水和剤 カナメフロアブル
6 斑点病 *Cercospora capsici*	1.排水を良好にする。 2.換気、通風を良好にする。 3.肥料切れをさせない。 4.摘除した病葉や収穫後の植物体残さは放置せず、早めに処分する。	定植時	P2	オリゼメート粒剤
		発病前から	3 24･M1 24･M1	ラリー水和剤 （混）カスミンボルドー （混）カッパーシン水和剤
7 うどんこ病 *Leveillula taurica*	1.密植を避け、風通し、日当りを良好にする。 2.摘除した病葉及び収穫後の植物残さは圃場に放置せず、早めに処分する。	発病前から	3 3 7 11 24･M1 24･M1 M2･M1	トリフミン水和剤 ラリー水和剤 カナメフロアブル ストロビーフロアブル （混）カスミンボルドー （混）カッパーシン水和剤 （混）クリーンワイドフロアブル

とうがらし類

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
8 白絹病 *Sclerotium rolfsii*	1.発病株を抜き取る。 2.株堀取り後に湛水する。 3.連作を避け、水田との輪作を行う。 4.太陽熱消毒を行う。 5.できるだけ高うねにして、圃場の排水対策を行う。	発病前から株元灌注	7	カナメフロアブル
9 アブラムシ類 (モザイク病 CMV AMV BBWV-2 PVY TAV PepMoV)	1.周辺雑草を防除する。 2.飛び込み軽減のため、育苗床を防虫ネット（1㎜目合以下）で被覆する。 3.周囲にシルバーテープをはる。 4.シルバーマルチをする。 5.発病株は早めに処分する。	育苗期	4A	アルバリン粒剤
			4A	スタークル粒剤
		育苗期後半	4A	アドマイヤー1粒剤
			9B	チェス粒剤
		定植時	4A	アドマイヤー1粒剤
			4A	ベストガード粒剤
			4A	アルバリン粒剤
			4A	スタークル粒剤
			4A	アクタラ粒剤5
		発生初期	3A	アディオン乳剤
			3A	アーデント水和剤
			4A	アドマイヤー顆粒水和剤
			4A	モスピラン顆粒水溶剤
			4A	バリアード顆粒水和剤
			4A	アクタラ顆粒水溶剤
			4A	ダントツ水溶剤
			4A	アルバリン粒剤
			4A	アルバリン顆粒水溶剤
			4A	スタークル粒剤
			4A	スタークル顆粒水溶剤
			9B	チェス水和剤
			9B	チェス顆粒水和剤
10 コナジラミ類	1.苗で本圃に持ちこまない。 2.圃場内及び周辺雑草を防除する。 3.飛び込み軽減のため、ハウス開口部を防虫ネット（1㎜目合以下）で被覆する。	育苗期	4A	アルバリン粒剤
			4A	スタークル粒剤
		発生初期	4A	ベストガード水溶剤
			4A	ダントツ水溶剤
			4A	アルバリン顆粒水溶剤
			4A	スタークル顆粒水溶剤
11 ミカンキイロアザミウマ	1.苗で本圃に持ちこまない。 2.侵入防止対策のとれているハウスでは、青色粘着トラップを吊るすことにより、密度を下げることができる。 3.シルバーマルチをする。 4.ハウス栽培では収穫終了直後に圃場の地表面を透明フィルムで全面被覆し（夏場の晴天日であれば1日処理が目安）、地温を50℃以上に上げると、土中の蛹を死滅させることができる。 5.飛び込み軽減のため、ハウス開口部を防虫ネット（1㎜目合以下）で被覆する。 6.周辺雑草及びハウス内の雑草処理を徹底する。 7.被害植物や雑草は除去後、土中に埋めるか、ビニール等で密封し、半月程度放置する。	定植時	4A	アルバリン粒剤
			4A	スタークル粒剤
		発生初期	3A	アーデント水和剤
			4A	アルバリン顆粒水溶剤
			4A	スタークル顆粒水溶剤
			13	コテツフロアブル

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

とうがらし類

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除		
		防除時期	RACコード	薬剤
12 ミナミキイロアザミウマ	1.苗で本圃に持ちこまない。 2.侵入防止対策のとれているハウスでは、青色粘着トラップを吊るすことにより、密度を下げることができる。 3.シルバーマルチをする。 4.ハウス栽培では収穫終了直後に圃場の地表面を透明フィルムで全面被覆し（夏場の晴天日であれば１日処理が目安）、地温を50℃以上に上げると、土中の蛹を死滅させることができる。 5.飛び込み軽減のため、ハウス開口部を防虫ネット（１㎜目合以下）で被覆する。 6.周辺雑草及びハウス内の雑草処理を徹底する。 7.被害植物や雑草は除去後、土中に埋めるか、ビニール等で密封し、半月程度放置する。	育苗期後半または定植時	1A	オンコル粒剤５
		定植時	4A	アドマイヤー１粒剤
			4A	ベストガード粒剤
			4A	アルバリン粒剤
			4A	スタークル粒剤
		発生初期	4A	アドマイヤー顆粒水和剤
			4A	ダントツ水溶剤
			4A	アルバリン顆粒水溶剤
			4A	スタークル顆粒水溶剤
			13	コテツフロアブル
			UN	プレオフロアブル
13 タバコガ類	1.飛び込み軽減のため、ハウス開口部に防虫ネット（４㎜目合以下）で被覆する。 2.幼虫は見つけしだい捕殺する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.本虫対象に防除を実施しているところではハスモンヨトウの発生が少ない。 2.本虫対象にアファーム乳剤で防除を実施しているところではハダニ類の発生が少ない。 3.プレバソンフロアブル５、アファーム乳剤、コテツフロアブルはオオタバコガ、アディオン乳剤はタバコガで登録がある。	若齢幼虫期	3A	アディオン乳剤
			28	プレバソンフロアブル５
			6	アファーム乳剤
			13	コテツフロアブル
			UN	プレオフロアブル
14 ハダニ類	1.苗で本圃に持ち込まない。	発生初期	3A	アーデント水和剤
			13	コテツフロアブル
15 センチュウ類	1.水田に転換可能な畑では２～３年に１回の割合で水田に戻す。 2.施設では夏期に１か月間の太陽熱利用による消毒を行う。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.土壌消毒方法はⅢ－14. 土壌病害虫の防除の項参照。	土壌くん蒸	8B	クロールピクリン
			8B	クロルピクリン錠剤
16 ネキリムシ類	1.植付け予定圃場では除草に努める。 2.育苗床は、雑草の繁茂していないところで設ける。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.土壌消毒方法はⅢ－14. 土壌病害虫の防除の項参照。	土壌くん蒸	8B	クロールピクリン
		播種時または植付時	1B	ダイアジノン粒剤３

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する